

平成 23 年 8 月 8 日  
コーチ：岩澤 基

### ダブルフォルトとセカンドレシーブミス

青陵中の弱点は、追い上げられた時または競った時に、ダブルフォルトやセカンドレシーブミスをしてしまうことが多いことです。

この2つのミスは、相手が何もしないのに点を与えてしまう大きなプレゼントで、試合の流れとパートナーの気持ちを大きく変えてしまいます。

< ネットで見つけた反省ブログ >

ゲームは、優勢に進んでいた。

私のパートナーが、サーブをミスした。ダブルフォルト。

次のサーブもダブルフォルト。2度連続のダブルフォルトは、私たちには珍しいことだった。

そのダブルフォルトが何と3度連続した。私の中で、何かが崩れた。

次のサーブの時、今度は私がスマッシュをミスした。そして、遂に並ばれた。

それから、私たちは、パートナーではなく、ライバルになっていった。

**「ミスした味方が許せない感情が、お互いに生まれたのである。」**

ミスをして、点を取っても、声をかけず、感情を出さなくなった。

テニスとは、不思議なものだ。自分が点を取ろうが、パートナーが点を取ろうが、リードしている時は、パートナーのミスはどうでもよくなる。

勝っている時は、誰にとっても簡単なスポーツ。

要は、負けている時、ミスをした時の感情をどうコントロールするかである。

**「ダブルスは、二人と二人が戦うスポーツだ。味方のはずの一方が、敵になれば、一人対三人になってしまう。これで勝てるはずがない」**

パートナーからしてみれば、ダブルフォルトやセカンドレシーブの連発ミスだけは、許しがたいミスなのです。

つまり、ダブルフォルトやセカンドレシーブのミスがなければ、頼もしいパートナーになることができ、相手からは強い選手と見えるのです。

さて、試合に勝つためには、何を強化していけばよいかわかりましたか？